

# 宮の森



発行元・白鳥神社総代会

## 稲葉乙吉さんのこと



白鳥神社の大  
神楽に一生、情  
熱を捧げられま  
した。偉大な大  
先輩です。稲葉  
乙吉氏、通称、  
乙ま（おとま）

は、明治39年5月10日に白鳥の宮森で誕生。昭和63年7月26日に82歳で天寿を全うされました。今、ご存命ならば112歳。亡くなられたから30年が過ぎました。知る人もだんだん少なくなってきたと思われまますので、概略を偲んでみました。

白鳥神社大神楽も、今年で520年の歴史を刻んできました。乙まは永きに渡り、大神楽に携わり、その神髓を極め、後世にその足跡を残されました。大正11年、17歳の時に初めて大神楽に笛者として出場、連続して15年務めた。その後、引き続き神楽の獅子回し、綾棒を兼ねながら、更に子役の太鼓、さららの指導を含め、多岐に渡り、師匠として、又世話役として、昭和58年迄、極めて熱心に、後輩の指導に当たられた。通算、62年の長い年月、一度も休む事のなかった事は驚異であります。大神楽が戦中戦後の苦難の時代を無事乗り越えて、永い伝統を守り続けて今日有るのは、乙まの並々ならぬ努力があった事は言うに及ばない。乙まは「祭りは楽しい、張り合いじゃ」と言って、情熱を燃やしておられたが、太平洋戦争末期に召集を受けて、部隊に入られ、その年

の祭りは出来ないと思いつめていた。だが、すぐに解除になり祭りに参加する事が出来た。この時の感激は生涯忘れる事がなかった。祭り好きの道楽者が、戦地にも行かずに、早く帰郷出来たのは氏神様のお陰だと深く信じた。それから一層神楽に打ち込まれた。先輩に子役の化粧を習い、祭りの朝、三人の子役の顔を描き「きれいに出来た！」と皆に褒められるのが何よりもうれしかった由。その為の化粧の技術と良質の化粧品を芸者さんから入手するのに大変苦労されたようだ。又、子役の顔、肌、性格等をよく調べ、夫々に合った化粧を心掛けた。乙まの本業は左官であったが、体はあまり丈夫でなく年中、何処かを患っておられた。しかし、祭りが近づくと必ず元気になり、張り切られた。乙まの夢は、親子孫親戚等の身内の者が総出で祭りをやりたいと、常々言っておられた。昔は、祭りに出たくとも出られなかった。祭りに出る事が名誉であり、誇りでもあった。

稽古は相当に厳しいものであったと聞くが、常に最上ものを求め、神髓を極め、人々に感動を与える大神楽を目指したからに他ならない。その精神は今も引き継がれている。今年も、天から見下ろして、何じゃそのザマは！と怒りながら、笑っているに違いない。

## 表彰状

白鳥神社が伊勢神宮から表彰を受けた。



伊勢神宮大麻（伊勢神宮の神札）頒布に貢献したかどで。伊勢神宮大麻とは、今は天照大神のお札の事である。大麻（おおぬさ）とは罪穢れを祓い除ける神具。昔は、その麻を和紙で包んだものを大麻と言い、神札とした。各家庭が神棚に飾り、罪穢れをのがれ、毎日の安寧を祈っている。

一年に日本で頒布された大麻は388万8千8百体と言われている。伊勢神宮が如何に大きな神社であるかが解る。その神社の大宮司が小松揮世久氏である。大宮司は神宮の最高責任者。小松氏は戦後10代目らしいが、歴代は皇族者である。この人から、お褒めを戴いたのだ。賞状には、「あなたは神宮大麻頒布向上に尽力せられ能く神徳宣揚に寄与されました」とある。

白鳥神社、毎年約580体、お求め戴いている。

氏は神のご加護を受け、神社は氏子と共にある。表彰状と言うより、互いの感謝状ではないだろうか？

## 稲荷神社例祭

五月二日、稲荷神社の例祭を挙行しました。曾我自治会長、野田・三島両市議、尾藤商工支部長、山田交通安全協会会長、正者農事組合

長、正者白鳥踊り会長、渡辺宝曆義民太鼓会長、葦島消防団第一分団部長、曾我商工会白鳥分会会長が玉櫛を奉奠。

白鳥町内各発展会長さん、神社総代含めて、四十人が出席。



護国豊穰、商売繁盛を祈念し、あわせて白鳥春祭りの盛況を念じました。前日までの雨も上がり、爽やかな薫風の中で、瀬上宮司の祝詞が朗々と読み上げられました。宮の森の間伐した杉材で、稲荷神社の鞘堂をこの秋に建立したい旨、総代長が挨拶し、神事を閉じました。

## 祈年祭・初午神事

二月四日 午前十時より、拜殿において、関係者五十名にて祈年祭と初午祭を同時に挙行致しました。

祈年祭はその年の五穀豊穰を、初午祭はやはり豊作に加